

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 2024年2月9日

【四半期会計期間】 第94期第3四半期(自 2023年10月1日 至 2023年12月31日)

【会社名】 株式会社G S Iクレオス

【英訳名】 GSI Creos Corporation

【代表者の役職氏名】 代表取締役兼社長執行役員 吉 永 直 明

【本店の所在の場所】 東京都港区芝三丁目8番2号

【電話番号】 東京(5418)2136

【事務連絡者氏名】 経理部長 内 山 和 也

【最寄りの連絡場所】 東京都港区芝三丁目8番2号

【電話番号】 東京(5418)2136

【事務連絡者氏名】 経理部長 内 山 和 也

【縦覧に供する場所】 株式会社G S Iクレオス大阪支店  
(大阪市中央区大手前一丁目7番31号(OMMビル))  
株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第93期 第3四半期 連結累計期間	第94期 第3四半期 連結累計期間	第93期
会計期間	自 2022年4月1日 至 2022年12月31日	自 2023年4月1日 至 2023年12月31日	自 2022年4月1日 至 2023年3月31日
売上高 (百万円)	101,813	110,802	131,054
経常利益 (百万円)	1,897	2,270	1,787
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益 (百万円)	1,316	1,641	1,769
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	2,218	2,320	2,204
純資産額 (百万円)	25,941	27,361	25,929
総資産額 (百万円)	73,664	72,889	69,412
1株当たり四半期 (当期)純利益金額 (円)	107.36	133.87	144.29
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	35.22	37.54	37.36

回次	第93期 第3四半期 連結会計期間	第94期 第3四半期 連結会計期間
会計期間	自 2022年10月1日 至 2022年12月31日	自 2023年10月1日 至 2023年12月31日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	33.15	28.05

- (注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
- 2 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

#### 2 【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」について重要な変更はありません。

### 2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

#### (1) 財政状態および経営成績の状況

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、個人消費の回復をはじめとした社会活動の正常化が進み、緩やかな景気回復基調が続くものの、世界的に不安定な政治・経済情勢やエネルギー・原材料価格の高騰などにより、依然として先行き不透明な状況が続いております。

こうした中、当社は、パーパス「次代の生活品質を高める 事業の創造者として 人びとの幸せを実現する」のもと、持続的な企業価値の向上にむけて、中期経営計画“GSI CONNECT 2024”に掲げる2つの挑戦「過去最高純利益の更新」、「資本市場からの信頼度の向上」に取り組んでおります。

当第3四半期連結累計期間の業績につきましては、売上高は、前年同期比8,988百万円、8.8%増収の110,802百万円となり、売上総利益は、前年同期比1,676百万円、15.9%増益の12,240百万円となりました。営業利益は、前年同期比470百万円、26.9%増益の2,215百万円、経常利益は、前年同期比373百万円、19.7%増益の2,270百万円、親会社株主に帰属する四半期純利益は、前年同期比325百万円、24.8%増益の1,641百万円となり、これらのすべての項目で前年同期を上回る結果となりました。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

#### <ファイバー>

インナー用機能糸・生地が取引が順調に推移し、レッグ用糸の取引が需要の回復を背景に伸長したことなどから、売上高は前年同期比11.7%増収の61,101百万円となり、営業利益は前年同期比48.2%増益の411百万円となりました。

#### <アウター>

欧米向け生地の出取引が、引き続き好調に推移しました。一方で、アパレル関連取引が子会社をはじめ苦戦を強いられましたが、売上高は前年同期比16.6%増収の15,196百万円となり、営業利益は前年同期比15.3%増益の665百万円となりました。

#### <インナー>

個人消費の回復に加え、為替変動や原料高による仕入価格高騰に対処したことなどから、売上高は前年同期比6.5%増収の9,411百万円となり、営業利益は264百万円（前年同期は255百万円の営業損失）となりました。

#### <セミコンダクター>

半導体市況の調整局面継続に加え、米国の対中半導体輸出規制の影響により中国の販売子会社の取引が減少したことなどから、売上高は前年同期比13.4%減収の7,830百万円となり、営業利益は前年同期比53.1%減益の343百万円となりました。

#### <ケミカル>

機能性樹脂・フィルムの取引および塗料原料の取引は、国内外の需要が堅調に推移したことなどから、売上高は前年同期比11.2%増収の9,854百万円となり、営業利益は前年同期比21.0%増益の529百万円となりました。

< ホビー & ライフ >

ホビー関連の取引が、主に海外の需要回復を背景に堅調に推移したものの、化粧品原料の取引が低調であったことなどから、売上高は前年同期比1.5%増収の4,020百万円となり、営業利益は前年同期比11.7%減益の438百万円となりました。

< マシナリー & イクイップメント >

産業機材の取引は、受注が低調であったものの、大型の機械装置販売に付随する受託加工サービスが堅調に推移したことなどから、売上高は前年同期比0.1%減収の3,387百万円となり、営業利益は前年同期比6,071.8%増益の92百万円となりました。

当第3四半期連結会計期間末における総資産は、売上債権の増加などにより、前期末比3,476百万円増加の72,889百万円となりました。

負債は、仕入債務の増加などにより、前期末比2,044百万円増加の45,527百万円となりました。

純資産は、四半期純利益による株主資本の増加や為替換算調整勘定の増加などにより、前期末比1,432百万円増加の27,361百万円となりました。

(2) 優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題について重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(3) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間における研究開発活動について、特記すべき事項はありません。

3 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 第3 【提出会社の状況】

#### 1 【株式等の状況】

##### (1) 【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	40,000,000
計	40,000,000

###### 【発行済株式】

種類	第3 四半期会計期間末 現在発行数(株) (2023年12月31日)	提出日現在発行数(株) (2024年2月9日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	12,629,942	12,629,942	東京証券取引所 プライム市場	単元株式数は100株であります。
計	12,629,942	12,629,942		

##### (2) 【新株予約権等の状況】

###### 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

###### 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
2023年10月1日～ 2023年12月31日		12,629,942		7,186		913

##### (5) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3 四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

## (6) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できず、記載することができませんので、直前の基準日である2023年9月30日の株主名簿により記載しております。

## 【発行済株式】

2023年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 362,600		
完全議決権株式(その他)	普通株式 12,200,400	122,004	
単元未満株式	普通株式 66,942		
発行済株式総数	12,629,942		
総株主の議決権		122,004	

- (注) 1 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式が200株(議決権2個)含まれております。
- 2 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式10株が含まれております。

## 【自己株式等】

2023年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社G S Iクレオス	東京都港区芝 三丁目8番2号	362,610	-	362,610	2.87
計		362,610	-	362,610	2.87

## 2 【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4 【経理の状況】

### 1 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

### 2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間(2023年10月1日から2023年12月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(2023年4月1日から2023年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表について、保森監査法人による四半期レビューを受けております。

## 1 【四半期連結財務諸表】

## (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	8,352	7,490
受取手形	1,486	3 1,512
電子記録債権	2,118	3 3,200
売掛金	31,798	33,861
商品及び製品	10,179	11,383
仕掛品	1,041	1,167
原材料	164	208
その他	2,958	2,461
貸倒引当金	450	310
流動資産合計	57,650	60,976
固定資産		
有形固定資産	3,741	3,671
無形固定資産		
のれん	379	852
その他	252	225
無形固定資産合計	631	1,078
投資その他の資産		
投資有価証券	5,483	5,287
その他	4 1,905	4 1,875
投資その他の資産合計	7,389	7,162
固定資産合計	11,761	11,912
資産合計	69,412	72,889
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	23,959	3 27,747
電子記録債務	-	3 1,463
短期借入金	12,821	10,154
1年内返済予定の長期借入金	83	94
未払法人税等	341	277
引当金	519	324
その他	3,731	3,625
流動負債合計	41,456	43,688
固定負債		
長期借入金	1,153	1,080
退職給付に係る負債	72	88
その他	800	669
固定負債合計	2,026	1,839
負債合計	43,482	45,527



(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年12月31日)
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	7,186	7,186
資本剰余金	859	862
利益剰余金	15,377	16,124
自己株式	287	284
株主資本合計	23,135	23,889
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,725	1,504
繰延ヘッジ損益	15	12
為替換算調整勘定	1,053	1,961
退職給付に係る調整累計額	31	18
その他の包括利益累計額合計	2,793	3,472
純資産合計	25,929	27,361
負債純資産合計	69,412	72,889

## (2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

## 【四半期連結損益計算書】

## 【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)
売上高	101,813	110,802
売上原価	91,249	98,562
売上総利益	10,564	12,240
販売費及び一般管理費	8,818	10,024
営業利益	1,745	2,215
営業外収益		
受取利息	31	69
受取配当金	74	103
持分法による投資利益	221	11
その他	160	104
営業外収益合計	487	288
営業外費用		
支払利息	127	145
持分法による投資損失	50	29
為替差損	126	30
その他	31	29
営業外費用合計	335	234
経常利益	1,897	2,270
特別利益		
固定資産売却益	-	2
出資金売却益	-	40
特別利益合計	-	43
特別損失		
固定資産除却損	1	2
本社移転費用	38	-
その他	-	8
特別損失合計	40	10
税金等調整前四半期純利益	1,856	2,303
法人税、住民税及び事業税	478	598
法人税等調整額	61	62
法人税等合計	540	661
四半期純利益	1,316	1,641
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,316	1,641

## 【四半期連結包括利益計算書】

## 【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)
四半期純利益	1,316	1,641
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	293	220
繰延ヘッジ損益	77	3
為替換算調整勘定	1,293	908
退職給付に係る調整額	21	12
その他の包括利益合計	901	678
四半期包括利益	2,218	2,320
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	2,218	2,320

## 【注記事項】

(会計方針の変更)

該当事項はありません。

(四半期連結貸借対照表関係)

## 1 保証債務

取引先の営業取引に関する契約履行保証

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年12月31日)
Milwaukee Composites, Inc.	731百万円	Milwaukee Composites, Inc. 1,786百万円

## 2 手形割引高

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年12月31日)
受取手形割引高	41百万円	30百万円

## 3 四半期連結会計期間末日満期手形

四半期連結会計期間末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理をしております。

なお、当四半期連結会計期間末日が金融機関の休日であったため、次の四半期連結会計期間末日満期手形が四半期連結会計期間末日残高に含まれております。

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年12月31日)
受取手形	- 百万円	159百万円
電子記録債権	-	237
支払手形	-	185
電子記録債務	-	184

## 4 資産の金額から直接控除している貸倒引当金の額

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年12月31日)
投資その他の資産	74百万円	158百万円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)
減価償却費	284百万円	292百万円
のれんの償却額	64	128

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)

配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2022年6月28日 定時株主総会	普通株式	796	65	2022年3月31日	2022年6月29日	利益剰余金

当第3四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)

配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2023年6月28日 定時株主総会	普通株式	895	73	2023年3月31日	2023年6月29日	利益剰余金

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント								調整額 (注1)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注2)
	ファイバー	アウター	インナー	セミコン ダクター	ケミカル	ホビー& ライフ	マシナ リー&イク イップメン ト	計		
売上高										
外部顧客への 売上高	54,684	13,032	8,840	9,040	8,863	3,960	3,391	101,813	-	101,813
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	10	-	23	0	9	22	48	113	113	-
計	54,694	13,032	8,863	9,040	8,872	3,983	3,439	101,927	113	101,813
セグメント損益	277	576	255	731	437	497	1	2,267	521	1,745

(注) 1 セグメント損益の調整額 521百万円には、セグメント間取引消去82百万円、各報告セグメントに配分しない  
 1 全社費用 604百万円が含まれております。

2 セグメント損益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれんに関する情報

該当事項はありません。

## 3. 報告セグメントの変更等に関する事項

当社グループは、従来の「繊維関連事業」を「ファイバー」「アウター」「インナー」に分割し、「工業製品関連事業」を「セミコンダクター」「ケミカル」「ホビー&ライフ」「マシナリー&イクイップメント」に分割することで、第1四半期連結会計期間より2区分から7区分の報告セグメントに変更しております。

当第3四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント								調整額 (注1)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注2)
	ファイバー	アウター	インナー	セミコン ダクター	ケミカル	ホビー& ライフ	マシナ リー&イク イップメン ト	計		
売上高										
外部顧客への 売上高	61,101	15,196	9,411	7,830	9,854	4,020	3,387	110,802	-	110,802
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	9	-	29	-	17	19	0	77	77	-
計	61,111	15,196	9,441	7,830	9,872	4,040	3,387	110,880	77	110,802
セグメント損益	411	665	264	343	529	438	92	2,745	529	2,215

(注) 1 セグメント損益の調整額 529百万円には、セグメント間取引消去116百万円、各報告セグメントに配分しない全社費用 646百万円が含まれております。

2 セグメント損益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

「アウター」において、第1四半期連結会計期間より株式会社SHAREの連結子会社化に伴い、のれんが発生しております。当該事象によるのれんの増加額は、当第3四半期連結累計期間においては573百万円であり  
ます。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報は、以下のとおりであります。

前第3四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)

(単位：百万円)

	報告セグメント							計
	ファイバー	アウター	インナー	セミコンダクター	ケミカル	ホビー&ライフ	マシナリー&イクイップメント	
地域別								
日本	7,834	7,217	7,621	1,513	5,855	3,199	2,637	35,880
アジア	46,790	3,673	1,218	448	774	494	192	53,592
米州	9	836	-	7,027	571	165	132	8,742
その他	49	1,304	-	50	1,662	101	429	3,597
顧客との契約から生じる収益	54,684	13,032	8,840	9,040	8,863	3,960	3,391	101,813
その他の収益	-	-	-	-	-	-	-	-
外部顧客への売上高	54,684	13,032	8,840	9,040	8,863	3,960	3,391	101,813

当第3四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)

(単位：百万円)

	報告セグメント							計
	ファイバー	アウター	インナー	セミコンダクター	ケミカル	ホビー&ライフ	マシナリー&イクイップメント	
地域別								
日本	8,007	7,525	7,902	1,173	6,812	2,745	2,899	37,065
アジア	53,073	4,395	1,509	302	895	565	174	60,916
米州	4	1,224	-	6,265	619	605	113	8,832
その他	16	2,051	-	88	1,527	104	200	3,988
顧客との契約から生じる収益	61,101	15,196	9,411	7,830	9,854	4,020	3,387	110,802
その他の収益	-	-	-	-	-	-	-	-
外部顧客への売上高	61,101	15,196	9,411	7,830	9,854	4,020	3,387	110,802



## (1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)
1株当たり四半期純利益金額	107円36銭	133円87銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額(百万円)	1,316	1,641
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益金額(百万円)	1,316	1,641
普通株式の期中平均株式数(千株)	12,260	12,265

(注) 1 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

## 2 【その他】

該当事項はありません。

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

2024年2月8日

株式会社G S Iクレオス  
取締役会御中

保森監査法人

東京都千代田区

代表社員  
業務執行社員 公認会計士 小林 譲

代表社員  
業務執行社員 公認会計士 小松 華 恵

### 監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社G S Iクレオスの2023年4月1日から2024年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（2023年10月1日から2023年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（2023年4月1日から2023年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社G S Iクレオス及び連結子会社の2023年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

### 監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 四半期連結財務諸表に対する経営者及び監査等委員会の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

・主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

・継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。

・四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作

成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。

・ 四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査等委員会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

#### 利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- 
- (注) 1 上記の四半期レビュー報告書の原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。  
2 XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。